

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

東日本大震災を思う

3月11日の大震災から約1ヵ月、生活と地域の復興のため大勢の人がそれぞれの立場で懸命に働いているなかで、笑顔を振りまく子供たちのたくましい姿をテレビで見て、忘れかけていた60数年前の自分を思い出した。

昭和20年の敗戦のとき、私は小学校2年生だった。見わたす限りの焼け野原、小学校も基礎と鉄筋だけを残した姿でそこにあった。

私の1日は配給のキップを持ってコッペパンをパン屋さんに取りに行くことから始まる。焼きたてのパンは本当においしかった。

学校はクラスごとにお寺に分散、木製のミカン箱の机があったが勉強をした記憶がない。

焼跡を走り回ったり、三角ベースの野球をしたりして暗くなるまで遊んだ。

夜は、家の中は薄暗く大人も子供も屋外で一緒に話をして過ごした。食べるものも粗末だったけれども毎日が本当に楽しかった。

「もはや戦後ではない」「所得倍増」そして公害、日本は発展を続けた。

私も民間企業のエンジニアとして、国内はもとより海外を走りまわった。

そして、ジャパン イズ ナンバワンと言われていたころはシンガポールで生活していた。出張は相変わらず多かったが、休日は家内と一緒に過ごすようにこころがけた。

あれから20数年。世界では、20億人余の大集団が数十年前の日本よりもっと速いスピードで生活の向上に邁進している。その結果、資源の不足と価格高騰、物価の高騰、賃金アップと格差、公害など種々の問題が顕在化している。

日本では、900兆円の借金、90兆円の国家予算の半分近くは借金、こんな生活が続くはずがない。

大震災は神様の強烈な警告だったのではないかと思う。

軍国主義から民主主義に大転換した時のように効率化、規格大量生産を追求した社会から身の丈に合った生活に変えなさいと。

ライフラインなど少しは復活しているとはいえ、何十万人の人たちが避難所生活を強いられ、福島原発からの放射能は立ち上がろうとしている人たちの生活を脅かしている。

そんな中、私ができることは東北の酒を飲み、野菜、魚など東北産の食物を食べようと呼びかける程度しかできない。

何十年かかるかは分からないけれども東北人による東北のため、美しい自然、豊かな土地を活用し心豊かで楽しい新しい社会の復興を目指してほしいと願っている。

田中 郁雄



2011年スプリングフェアにて

1. 3~4月の活動報告

- ① 3月26日(土)晴 20名 スプリングフェア準備、炭小屋整備
- ② 4月2日(土)晴 23名 SF準備、昨秋倒れたコナラ材回収 (観桜会延期→30日に)
- ③ 4月9日(土)雨 16名 SF準備、総会
- ④ 4月16日(土)晴 30名 スプリングフェア (横浜公園)
- ⑤ 4月17日(日)晴 23名 スプリングフェア
- ⑥ 各水曜日 準活動日として木工作业等を実施



さあ気合を入れて！



乗り心地はいかが？



お陰さまで、完売！

2. 4~5月度活動予定(細部は当日決めます)

- ① 4月30日(土) 観緑会(延期した観桜会です。作業はありません)
- ② 5月7日(土) 竹林整備、トウネズ除伐、炭材準備 味噌汁当番:未定
- ③ 5月14日(土) 竹林整備、下草刈り(サクラ林)、炭材詰め 同:未定
- ④ 5月21日(土) 炭焼き、竹林整備、トウネズ除伐、運営会 同:未定
- ⑤ 5月22日(日) 炭焼き
- ⑥ 5月28日(土) 製材、クヌギ林管理作業、炭小屋整理、道具手入 同:未定
- ⑦ 毎水曜日:準活動日

3. 編集後記

- ① 今回の巻頭コラムは田中郁雄さんに書いて頂きました。確かに神様の警告だと思わざるを得ない気にもなります。田中さんの前向きで楽観的な雰囲気は、戦後の焼け跡で暗くなるまで遊び回ったことから養われたのですね。プロジェクトXに登場する星々は田中さんの世代だと思いますが、第一線を退かれてもボランティア活動に参画されているエネルギーの源を見たような気がしました。そのDNAを受け継いで、震災からの復興を果たし原発の後に来るエネルギー戦略の実現することが、3万人弱に上るでしょう犠牲者に報いることになるはず。頑張りましょう。
- ② 16日・17日のスプリングフェアは、好天に恵まれ大盛況でした。前週の長期予報では、土日とも雨模様でしたが、徐々に前倒しになり土曜の早朝には雨が上がりました。それでも、土曜日の午前中は会場への来場者も疎らでおまけに大きな余震も来るなど、自粛ムードが勝るかの雰囲気でした。森の恵みコーナー裏の遊具エリアには例年外国人も多いのですが、今年は殆ど見られませんでした。ところが、午後になるとドンドンとお客さまがやって来だし、今回初めて設けた「竹とんぼ作り」コーナーや復活させた「駕籠かき」にも多くのお客さまがやってきました。日曜も前日の流れは変わらず、用意した殆どの商品が売り切れました。売上の全額は神奈川新聞を通して被災地に義捐金として寄付をします。会場にてお客さま対応をされた皆さまどうもお疲れさまでした。
- ③ 前月号にも記載しましたが、ボランティア保険の内容が変わり、チェーンソー作業が制限されます。1日の作業は5名までに限定されます(チェーンソーを使用する作業に関わるメンバーが5名まで)。年間作業日数も60日なので、今年度は土曜日以外にチェーンソーに触ることを禁止します(手入れも不可。仮りに守られずに被災した際は、来年度からの契約が出来なくなる恐れもあります)。保障内容等も含め詳細については、5月度運営会にて説明します。
- ④ この会報配布と同時に、ボランティア保険の加入証を同封していますので、必ずご確認ください。

以上